



1. 第11回 ITER 理事会開催：ITER 計画の着実な進展を確認

2012年11月28, 29日に、第11回 ITER 理事会が最近完成したITER機構本部建屋で開催されました。理事会はITER計画の最高意思決定機関であり、高津英幸（日本）議長の下、中国、欧州連合、インド、日本、韓国、ロシア、及び米国の7つのITER加盟極からの代表が一堂に会しました。

理事会は、ITER 本部建屋の完成を含め、ITER サイトにおける建設が力強く継続していること、ITER のコイル製造において顕著な進展があったことを確認しました。350 トンを超えるトロイダル磁場コイル導体を使用するニオブ3スズ素線が6極により製造され、これはプロジェクトで必要とする全量の75パーセントに相当します。また、ニオブチタンのポロイダル磁場コイル導体の65トン（必要量の25パーセント）が、中国、欧州、ロシアにより製造されました。会合において、ITER 機構はこれまでに80件の調達取決めが署名されたことを報告しました。これは ITER 建設の全物納価額の 81.2 パーセントに相当します。

理事会は、ITER 機構と国内機関の協力を強化するために、ITER 機構によって提案された統合されたプロジェクトの運営手法を歓迎しました。本島修 ITER 機構長は、「ITER 機構及び7つの国内機関は、ITER 計画の実施のため、これまでより一層緊密に協力すべく『ユニーク ITER チーム』を設立した。これにより特に共同で協力の有効化を阻む障害の原因に立ち向かっていくことができるようになるであろう。『ユニーク ITER チーム』での更なる統合は、我々の目標を達成し、計画の総コストを最小化するための鍵だ。」と強調しました。

最後に、ITER 理事会は、主要な許認可のマイルストーンの達成（ITER を建設する許可をITER機構に与える法令にフランス政府が署名した）を賞賛しました。

ITER 理事会は、理事会及びその補助機関の議長及び副議長を再任し、テストブランケット・モジュール計画委員

会の議長として過去4年間にわたる小西教授の貢献に感謝しました。（図1, 2）

2. ITER 職員募集説明会の実施

11月7, 8日2012年度秋季低温工学・超電導学会（岩手いわて県民情報交流センター(アイーナ)）、11月10, 11日サイエンスアゴラ（東京 日本科学未来館）、11月27～29日プラズマ・核融合学会年会（福岡県 クローバープラザ）において核融合、ITER・BA などに関する資料を配布し、ITER 計画について説明するとともに、ITER 機構職員募集の案内を行いました。サイエンスアゴラでは、核融合についての導入として太陽専用の望遠鏡を用いて太陽の核融合を観察するなど、核融合を身近に感じて頂けるように工夫をしました（図3）。また低温工学・超電導学会においては、展示会における優良発表賞を受賞しました。

詳細については那珂 ITER ウェブサイト (<http://naka-www/jaea.go.jp>)の「ITER 機構職員募集説明会について」をご覧ください。

（日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門）



図2 日本のITER理事会メンバー。



図1 第11回ITER理事会議事風景。



図3 太陽専用の望遠鏡を用いての太陽の核融合を観察。